

年間第6主日 A年

第一朗読 シラ 15・15-20

第二朗読 一コリント 2・6-10

福音朗読 マタイ 5・17-37

2026.2.15 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日は子どもたちがごミサの奉仕をしている、そういう意味で子どもたちと共にお捧げする——いつも共に捧げてますけども——今日特に子どもたちがお手伝いをする、そういう日になっていますので、まずは子どもたちに向かってお話しします。

今日、みんながいろんな役——朗読、答唱詩編とかアレルア唱を歌ってくれたりとか、奉納とか、共同祈願——このごミサでいろんな役をしてくださっています。それは、神父さんとかのお手伝いをするわけではない。それもあります。でも、神父さんもみんなと一緒に神様のお手伝いをしている。それがごミサです。ここに集まっているみんなは、神様がこの世界にこのごミサを通して恵みを与えようとしている、その神様のお仕事のお手伝いをするんです。

人間の手伝いだったらうまくできた、うまくできない、あるいはうまくできないと怒られるみたいな、そういう心配があるかもしれませんが、神様のお手伝いの場合は、どんなであっても、働かれるのは神様ご自身ですから、わたしたちは、うまくできるかなとか、失敗しないようにとか、そう心配する必要はないんです。大切なのは、「神様のお手伝いをします」という心を持つということなんだと思います。

神様はわたしたちを勝手に使いません。神様が手伝ってくれないか呼びかけて、わたしたちが「お手伝いします」とって心で答えるならば、それを用いるんです。みんなのお友だちの本とかおもちゃとかを勝手に使ったら良くないね。でも、「貸して」とって言って、「いいよ」とって言ったら喜びになりますよね。神様も、勝手には使いません。みんなが、「お手伝いしてくれますか?」、「いいですよ」とって言えば、それを用いて、だけど、どういうふうに神様がわたしたちを使われるのかは神様だけがご存知だから、

自分がうまくできるとかできないとか、まだ子どもだとか、そういうのは関係ないわけです。

これから、またいつもみたいにみんなに祭壇の周りにちょっと来てもらいます。そして平和の挨拶の時には、この教会の中にいるみんなに平和の挨拶をするために、みんな回って平和を届けていただく。子どものわたしたちが平和をどうやって大人に届けるのでしょうか？ それは心配ないんだよね。神様がわたしたちを使って、お互いに平和を与え合う、そういう役割を果たせるようにしてくださるからです。

大人のわたしたちも自分の思いとか、自分のことだけを考えているならば、神様がいろんな人たちやいろんな出来事を通して与えようとされている恵みに気がつかない、あるいは、心を閉じてしまうということもあるかもしれません。ですから、このごミサそのものは神の業に参加する、受け取る側として、また神様と共に与える側として、でもそれを本当に実現してくださるのは神様ご自身なんだっていうことを絶えず、神の業に参加するっていうこのミサを通していつも、思い起こし続けたいと思います。

一人ひとりがこの世にあって神の道具となる、そして道具となることを通してさらに恵みを受け、世の中が本当に少しでも神様のみこころに適ったものになっていくことができますように、今日、奉仕してくれている子どもたちと一緒に、このごミサを通して、すべての人のために神様の恵みを願い、またそのためにわたしたち自身をお使いになるならば「どうぞ、それに協力します」っていう心を、神様への答えを、新たにしたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>